

～過去が現在を照らし出す～

ディストピア 満洲国 日本人の心を捉えたプロパガンダ

『満州事変』から85年。侵略戦争を『事変』と言い、傀儡国家を作り、民衆支配を『五族協和』と言っていた日本。また再び『積極的平和主義』と武器を手にして世界に向かおうとしています。

こんな日本の過去と現在を『神国日本のトンデモ決戦生活』、『「日本スゴイのディストピア 戦時下自画自賛の系譜』著者早川タダノリ氏と『東京満蒙開拓団』の著者の一人藤村 妙子が語り合います。

日時 10月27日(木) 午後6時30分開場

場所 東京堂書店ホール

事前申し込み制です。申し込み先 東京堂書店のホームページ、TEL03-3291-5181

参加費 500円

早川 タダノリ氏

1974年生まれ。フィルム製版工などを経て、現在は編集者として勤務。ディストピア好きが高じて20世紀の各種プロパガンダ資料蒐集を開始。著書に『「愛国」の技法』（青弓社）、『神国日本のトンデモ決戦生活』『原発ユートピア日本』（ともに合同出版）などがある。週刊金曜日に「昭和の愛国ビジネス」を好評連載中。

藤村 妙子

1954年 東京生まれ 1973年都立高校卒業後地方自治体勤務。2007年9月 東京都大田区内の市民運動活動家と「東京の満蒙開拓団を知る会」を結成。2012年9月共著「東京満蒙開拓団」（ゆまに書房）を出版



1931年（昭和6年）9月18日に中華民国奉天（現瀋陽）郊外の柳条湖で、関東軍が南満洲鉄道の線路を爆破した事件（柳条湖事件）に端を発し、関東軍による満洲（現中国東北部）全土の占領が行われ、1932年3月1日『満洲国』が作られた。